

テレマン盤を聴く(1)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(1)—

1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行いバッハのアナログ盤を聴き直してきました。今回は、テレマン盤を聴いてみることにしました。

2. テレマンのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、バッハのアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンティスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。今回は、次のテレマン盤を聴いていきます

ERATO ERA-1030

G.F.テレマン 4重奏曲ト長調
4重奏曲ホ短調
ソナタイ長調
4重奏曲ニ短調
3重奏曲ホ長調

パリバロックアンサンブル

TELEFUNKEN SLA 1118

G.F.テレマン ブロックフレーテとバスソコンティヌオのための6つのソナタ
フランス・ブリュッヘン (ブロックフレーテ)
グスタフ・レオンハルト (チェンバロ)
アンナー・ビルスマ (チェロ)

3. テレマンのアナログ盤の試聴結果

ERATO 盤の4重奏曲は、ZANDEN のリストを参考に、RIAA、R、第4時定数 Mid で聴いていきますが、違和感はありません。パリバロックアンサンブルは、フルート、オーボエ、ヴァイオリン、ファゴット、チェンバロの構成で、チェンバロが通奏低音

を受け持つ四重奏曲と三重奏曲で、明るく華やかで、弦と木管の質感も明晰です。**TELEFUNKEN** 盤のブロックフレーテとバスソコンティヌオのための6つのソナタは、**ZANDEN** のリストを参考に、**TELDEC**、**R**、第4時定数 **Mid** と **DECCA**、第4時定数 **Mid** で聴いていきましたが、後者の方は高音がきつくなりますので、前者を採りました。ブロックフレーテが旋律を演奏し、チェンバロとチェロが通奏低音のように支えるという構成です。ブロックフレーテが自在に活躍し、チェンバロとチェロも明晰に主張し、音階や音色もはっきり聴き取れます。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とスピーカーアキュライザーの **Crstal EpY-G** と **Magic Mat II** の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上